

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■子実とうもろこし 新たな輪作体系の取組

(有) サポートいびは経営面積の増加に伴い、水稻、麦類、大豆の2年3作体系を行う上で、播種期に限られる大豆の安定生産が課題となっていた。

そこで、令和4年度は水田リノベーション事業を活用し、播種期が広く、省力化と収益性が期待できる「子実とうもろこし」を20haで栽培し、契約数量50tを見込んでいる。

新たな輪作体系の導入により作期分散が図られる等の利点により生産拡大に取り組む意向である。



【子実とうもろこし栽培状況】

■柿 袋掛け富有柿栽培研修会の開催

7月31日に、大野町かき振興会員を対象に袋掛け富有柿の栽培研修会が開催され、袋掛け富有柿栽培による所得向上効果や現在の柿の生育状況等について説明を行った。かき振興会会長が実際に袋掛けを実演し、袋掛け時の方法や注意事項、果実の選定基準などを説明した。

袋掛け富有柿の出荷は、通常の富有の出荷が終了し、12月上旬頃から始まり、品質基準をクリアした高品質のものは「果宝柿」、「紅富有」として高値で販売される。一手間かけることで生産者の収益増、産地のPR効果が期待できる。



【研修会の様子】

■柿 自走式無人防除機の実演会の開催

8月1日に、揖斐地域果樹産地協議会主催の「自走式無人防除機R150」の実演会が、大野町かき振興会の観光柿園で行われ、振興会会員、関係者等30名程度が出席した。

無人で防除作業ができ、リモコン等操作が必要のないことから防除作業の軽労化につながり、高齢化や担い手対策としても期待できる。メーカーから防除機についての詳しい説明があり、スマート農業技術の導入効果について理解を深めた。農業普及課は、実演会の企画運営等支援、防除効果を検証するための調査を実施した。



【実演会の様子】

■栗 栗栽培にむけた検討会議

7月29日にJAいび川担い手サポートセンターにて栗栽培に向けた検討会が開催された。池田町内の茶生産者が乗用摘採機が利用できない茶園を対象に、栗への改植を検討しており、作業性や品種等について意見交換を行った。栗の収穫時期が秋冬茶の摘採時期と重ならないよう品種を選ぶ必要があるが、新たな特産品として、また耕作放棄地対策としても期待される。

令和5年の春に栗の定植を予定しており、継続的に栽培指導などの支援を行っていく。



【検討会議の様子】

中山間地域を守り育てる対策

■飛騨・美濃伝統野菜等 飛騨・美濃伝統野菜を囲む会を開催

8月6日に揖斐川町春日で、「飛騨・美濃伝統野菜を囲む会」として、揖斐川町の飛騨・美濃伝統野菜「沢あざみ・春日きゅうり・春日豆・こんぶり」の紹介と意見交換、「徳山なんば」の収穫作業体験等を実施した。

会は、若い世代へのPRと彼らからの情報発信をねらいに、里山くらし応援隊としてサークル活動している岐阜大学の学生を招き、昔ながらの日常的な料理の試食や作業体験を通じて地域資源の魅力を体感して貰った。サークルの代表者から、「希少な農産物を知ることができた。少しでもまだ知らない人たちに伝えるとともに、今後も春日地域での活動をしっかり行っていきたい」と感想が述べられた。



【意見交換の様子】

■金ごま 生育状況確認

7月26日に令和4年産の金ごまの生育状況確認を、農業普及課、JA、実需者と新規栽培者で行った。今年度は、5月下旬から6月下旬にかけて播種が行われ、19戸で約45aが作付けされた。今年初めて栽培に取り組む生産者が9戸あり、新規生産者のほ場を中心に13ヶ所の状況を確認した。

新規栽培者のほ場を含め、昨年度と比較すると発芽状況・生育状況とも概ね順調であった。しかし、生産者ごとにほ場環境が異なり、一部で病気の発生や虫害、生育の悪いほ場もあった。今後、9月中旬以降の収穫に向け引き続き生育状況確認し、生産者に情報提供を行う。



【新規栽培者のほ場様子】